

大人のための ぎふ感染症かわら版

令和元年 7月 26日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

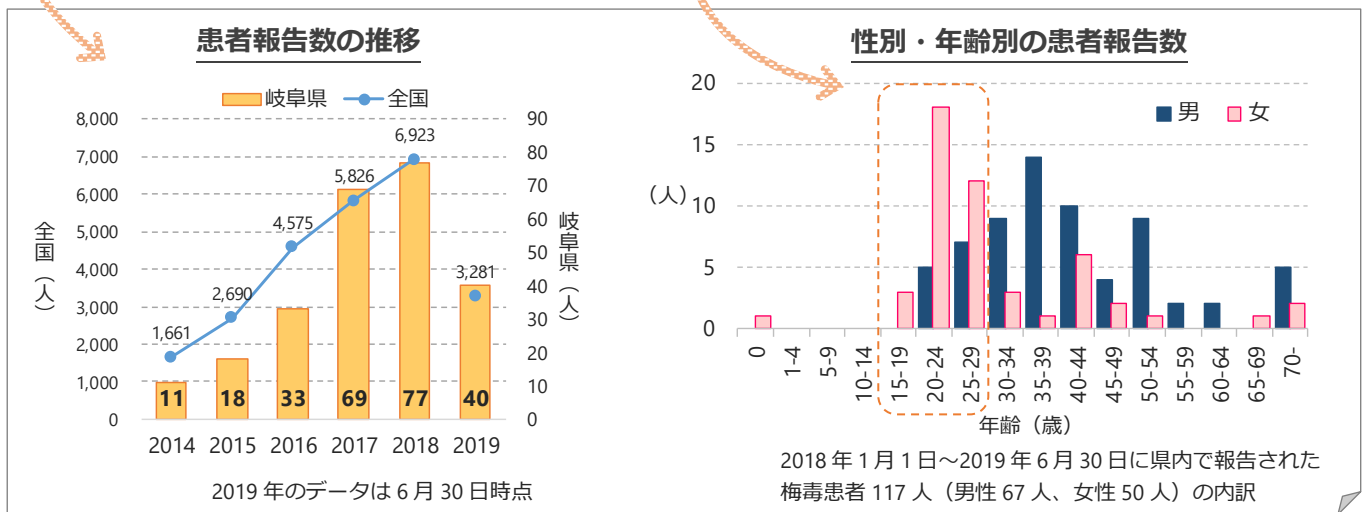


梅毒にかかっている人が増えています！

ここ数年、性感染症の一つである梅毒の患者が全国的に増加しています。

岐阜県内でも感染する人は増えており、報告される患者の数は、隣接する8県では愛知県に次いで2番目に多くなっています（2018年）。

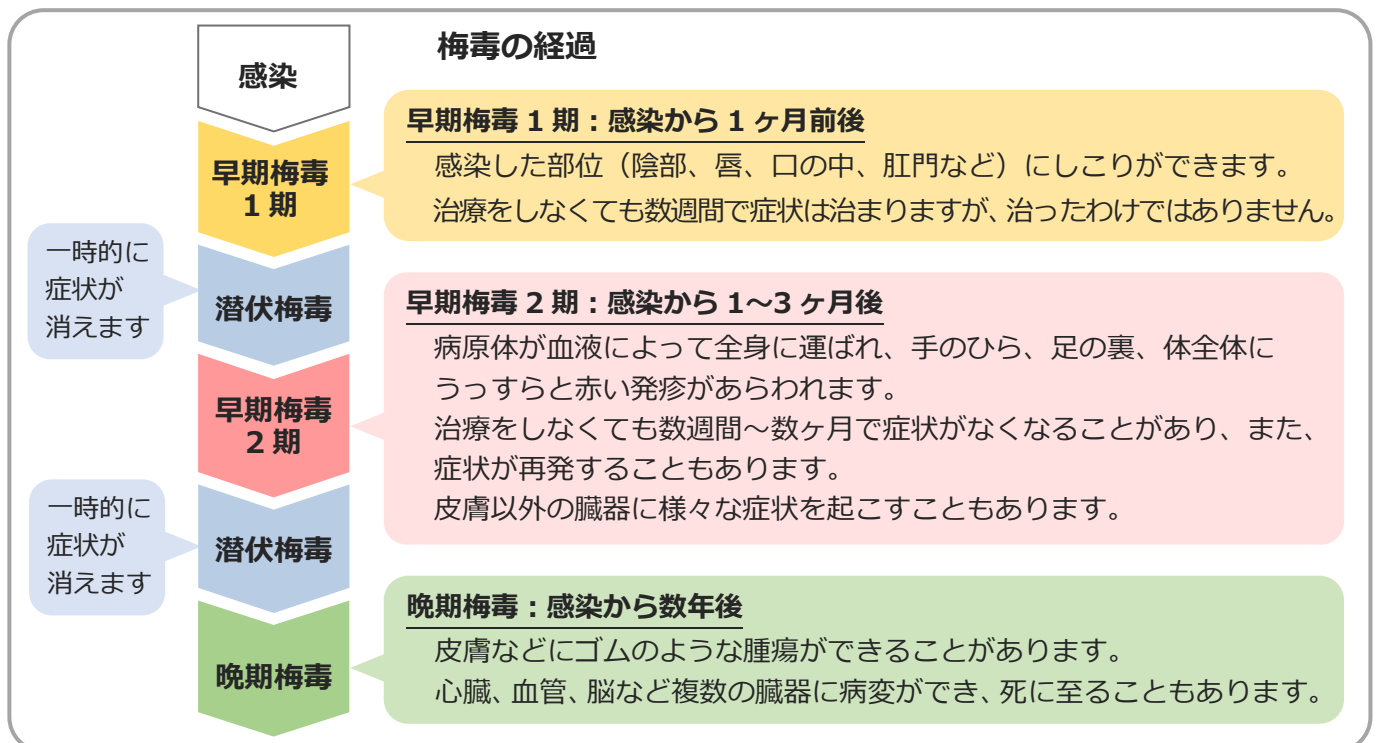
最近では、特に10代後半～20代の若い女性患者の増加が目立っています。



どんな病気？

梅毒トレポネーマという病原菌による感染症です。

長い時間をかけて症状が様々な変化・進行し、症状が消える期間（潜伏梅毒）もあります。感染早期に抗菌薬による治療を行うことで完治しますが、治療をせずに放置すると、数年後に重い症状をおこすことがあります。



どう感染するの？

性行為の際に、感染部位と粘膜や皮膚が接触することにより感染します。
具体的には、性器と性器、性器と口、性器と肛門の接触などが原因となります。

感染しているかどうかを知るには？

梅毒の感染は、医師の診察と血液検査（抗体検査）で判断します。
皮膚科、泌尿器科、婦人科などで検査を受けることができます。
梅毒の感染がわかった場合には、パートナーも検査を受けましょう。



★ 県内の保健所でも、匿名・無料で梅毒の抗体検査を受けることができます

保健所によって検査日が決まっており予約が必要です（検査日は HIV 抗体検査と同日です）。
詳しくは下記をご覧ください（県保健医療課ホームページ「HIV 抗体検査のご案内」）。

https://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/aids-advice.data/H31-3_aids_kensa_chirashi.pdf



妊婦の方へ ～梅毒はお母さんからお腹の赤ちゃんに感染することがあります～

妊娠している女性が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産や早産を起こしたり、生まれてきた赤ちゃんに重い症状を起こすことがあります（先天梅毒）。
県内でも、2019年に入り先天梅毒の患者が報告されています。

先天梅毒の発生を防ぐため、初期の妊婦健診で梅毒の抗体検査が行われています。
ただし、検査後に梅毒に感染して赤ちゃんが先天梅毒となることもあるため、
検査が陰性であっても、出産までの感染予防が大切です。

また、妊婦健診で梅毒に感染していることがわかった場合、
早期に適切な治療をすることで、先天梅毒を防ぐことができます。



予防方法は？

不特定多数との性行為を避けることが基本になります。
また、コンドームの使用は、感染部位との接触を防ぐため、感染予防に効果があります。
ただし、コンドームが覆わない部分の接触で感染する可能性もあるため、100%感染を
予防できるわけではありません。
皮膚や粘膜に異常があった場合は、早めに医療機関を受診することが大切です。

梅毒は、症状の消える期間があるため、受診と治療が遅れることがあります。
自分自身のため、またパートナー、そして赤ちゃんのためにも、早期発見・
早期治療が何より大切です。感染の心配のある方は、検査を受けましょう。



通常は、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症流行状況や予防に役立つ情報をわかりやすく解説した
「ぎふ感染症かわら版」を発行しております。

くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

